

防災、防犯、地域奉仕活動の推進

※世帯数及び人口は令和4年4月1日現在

東区	小学校区・地区名	可知学区	世帯数	3,876 世帯	人口	8,484 人
----	----------	------	-----	----------	----	---------

■組織の概要

住民自治活動の基礎的組織である「連合町内会」と各種の地域活動に取り組む集合組織である「コミュニティ協議会」が相互に協力しながら、住民の自主活動に取り組んでいます。「この可知学区に住んで良かった。」と安全安心を実感してもらえる街づくりを目指し、設立しました。

現在は、23町内会と14の各種活動団体が参加しています。

■活動の取組内容

①防災活動

全国各地で頻発する気象災害からの避難行動を教訓に、当学区においても意識と行動の一致を図るよう、防災・避難訓練を行っています。近時のコロナ禍回避のため、一堂に会しての啓発活動や救急救命活動の訓練ができていませんが、居住地から避難場所（可知小学校）への避難経路の確認と危険箇所の点検を行っています。

②防犯活動

子ども達が巻き込まれる悲惨な事件や交通事故に遭遇することを未然に防止するため、平成30年に「可知学区青色防犯パトロール隊」を、令和2年には「可知っ子安全パトロール隊」を編成しました。青色防犯パトロール隊では15台の登録車と25人の隊員により、また、安全パトロール隊では30人の隊員により、学童の登校・下校時を中心に、巡回見守り活動を行っています。



R3年7月 可知小学校一斉下校での対面式

③地域奉仕活動

関係機関からの要請により、清掃活動や災害復旧支援活動に応じていますが、一定の体力を要することから活動が限られています。

■活動の成果

防災活動では、訓練を通じ、住民の防災意識の醸成と、救急救命活動や備蓄品の充実に寄与しています。防犯活動の巡回・安全パトでは、事件や事故には遭遇していません。隊員達は地域の生活環境を感じ、子ども達の顔が見えるようになり、子ども達は元気にあいさつができるようになりました。隊員達にとっては子ども達から元気がもらえるようになったと喜ばれています。

■今後の課題

防災活動では、高齢者、障がい者、乳幼児等の避難行動にどのように関わっていくのか、まず要支援者の把握に努めることが必要です。防犯活動では、日中は勤めの人が多く、活動に参加できるのは比較的元気な高齢者が中心とならざるを得ない状況であり、特定の者が長期にわたって諸活動に従事している実態です。いずれの場合にも、マンパワーの確保が重要です。

■工夫していること

現在はコロナ禍の影響により、あらゆる地域活動が停滞していますが、スポーツイベント、祭り、サロン活動など人の集まりの中から、あいさつ、声掛けを行い、一人でも多くの仲間を活動の輪（和）の中へ誘うように努めています。

【協働する団体等】 民生委員児童委員協議会、愛育委員会、交通安全対策協議会、老人クラブ連合会、体育協会、交通安全母の会、防犯母の会、栄養改善協議会、環境美化委員会、消防団、青少年育成協議会、連合町内会、コミュニティ協議会、連合防災会